

深化の過程



2021.12.06
No.14

☆計画訪問Ⅱ① 篠崎先生、お疲れ様でした！

1年国語「じどう車くらべ」

<自分の考えをもたせ、思考を広げ深める指導の工夫>

- ①はしご車の写真から「しごと」に合った「つくり」を見つけさせたり、全体で確認させたりすることで、文章作りへの見通しをもたせる。(思考の追加・変化・強化)
- ②「じどう車くらべ」で「しごと」と「つくり」を整理するのに用いたワークシートと同じ形式のものを使うことで、はしご車の写真に印をつけたところを整理しやすくする。(つなぎ教材の活用)



<成果>

○ねらいに迫る手立て

- ・「しごと」と「つくり」を色分けするなど、資料やワークシートを視覚的に捉えやすくしたことが効果的だった。児童が自分の考えを表現する活動に生かされていた。また、「しごと」は全体で押さえて「つくり」だけを考えさせていた。思考の制限を行うことで、文章を書くというねらいを達成することができた。

○つなぎ教材

- ・既習内容の掲示を使用し、文末表現を確認するなどの内容の押さえが効果的で、本時のねらいに迫る活動に生かされていた。

○児童主体の学び

- ・学級内のどの子も受け入れる姿勢がある。温かい声かけ、支援がされていた。
- ・自己決定の時間をしっかりと取り、ネームプレートを活用して自己肯定感を高めるなど、生徒指導の三機能を取り入れていた。また、1つ書いたら紙をもう1枚もらって書くという手立てをとっていた。個人差に対応するとともに、「もっと書きたい」という意欲に結びついていた。

○ICTの効果的な活用

- ・サイレンの音を聞かせることに活用していた。視覚だけでなく聴覚に訴える活動にも使用できる。

<課題と具体的な改善策>

☆発問の精選、タイムマネジメント

- ・仕事に関係ない「つくり」を発表する児童も多くいた。仕事に関係する「つくり」を発表することを強調し、その「つくり」がどの仕事につながっているかを考えながら発表できるようにさせるとよかった。そのために、「しごと」の部分はワークシートの言葉を使うなどして短縮し、「つくり」の時間をもっと生み出すようにする。

☆資料提示の方法

- ・例えばICTを活用して既習内容をタブレットに送れば、教科書やワークシートを使うよりもポイントを押しさえて児童に示すことができる。

☆成果と課題は、国語部や教頭先生がまとめてくださったものから抜粋させていただきました。児童の関心を高める資料の提示や見通しをもたせる(迷わせない)工夫など、参考にしたいです。(文責：山崎)

